

令和8年度第4回都市経営会議 令和8年(2026年)5月19日(火)開催

■ 出席者

森市長、藤島副市長、吉田副市長、赤井教育長、藤本上下水道事業管理者、山内技監、羽田部長、柳田部長、古南部長、中出部長、江崎部長、数田危機管理監、中村部長、佐伯部長、総谷部長、政処部長、鈴木部長、岡田部長、荻野消防長、津田議会事務局長、高田部長、藤川部長、藤田部長、下野上下水道局長、甲斐病院副事業管理者、福永病院副事業管理者

■ 議事概要

1 宝塚市福祉医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について

【提 案】 市民交流部

【結 果】 承認

【質疑等】 なし

2 宝塚市新病院整備基本計画書【基本部分】(案)に係るパブリック・コメントの実施について

【提 案】 市立病院

【結 果】 承認

【補 足】

- ・精神科の標ぼうについて、心療内科が精神疾患や認知症の合併症を持つ急性期患者の診療を担っている。他の医療施設と連携し、体制を確保するが、精神科医療については、公立病院としてどのような対応が可能か引き続き検討する。市民には丁寧に説明していく方針である。
- ・計画書案P.18にある「公共交通機関によるアクセスの利便性が低いことが課題となっています」という記述について、所管課からは「公共交通が不便という認識はない」との意見があった。しかし、市民の誰もが利用する施設として現状のアクセスは脆弱であると認識しており、交通アクセスの改善は重要な課題であると考えている。
- ・既存棟のリスクについて、延べ床面積は3万平方メートルあるが、これを埋めるために、市内の主な医療機関を回りながら、話を進めているが、これだけだとなかなか埋まらない。たからづかモデルで想定している公共施設以外も可能性を検討していかないといけないと考えている。色々な情報、各課の所管について、アイデアがあればいただきたい。

【質疑等】

- ・所管部としても、市立病院への公共交通アクセスに課題があることは認識している。今回意見したのは、公共交通アクセスの利便性低下の理由として「令和4年4月のバス路線再編や減便」とされていたためである。事実として、当該再編によって市立病院を通

る路線の便数が大きく減少したわけではない、という点を指摘したものである。